



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社フジテレビジョン (B)

5

【ライブドア、フジテレビの買収攻防戦終結への道筋】

3月28日

10

堀江氏は、予定していたSBI北尾氏を介した和解交渉をキャンセルした。北尾氏も、3月31日に自社ホームページで「私としては、積極的に仲介の労をとりたいとも考えておりません」と述べた。^[1]

3月29日

大和SMBCは3月29日、新株予約権を始めて使用し、4分の1に当たる約200億円分のフジ株7万1698株を取得した。大和SMBCはその以前の3月25日と28日に計7万2000株を売却した。28日売却分は、大和SMBCからの依頼を受け、東宝が市場外の相対取引で購入した。

15

大和SMBCは以前から同社がニッポン放送から借りていたフジ株をフジの安定株主に売却し、新株予約権を使用して、フジ株を補充、自社の保有割合を維持した。大和SMBCは残る600億円分も転換することができる。この一連の作業で、現在の市場価格換算で発行済み株式の10%近いフジ株を安定株主向けに供給できる。^[2]

20

4月1日

ニッポン放送の株式を議決件ベースで過半数確保したライブドアが、同放送を証券取引法上の連結子会社とすることを発表した。同放送が連結対象子会社となることで、ライブドアの連結売上は単純計算で、昨年9月末の約300億円から1400億円規模に拡大。ヤフーや楽天を抜き去り、売上高ベースではインターネット業界のトップに踊り出る。ライブドアは2004年9月期連結決算の売上高が308億円。

25

本ケースは、クラス討議の資料とするために、慶應義塾大学経営管理研究科准教授 小幡 績によって作成された。経営管理の巧拙を記述したものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 小幡 績 (2021年12月作成)